

金沢大学社会教育研究室のあゆみ

(その十二)

昭和四十六年度（第十四年次）

金沢大学教育学部社会教育研究室のあゆみ（その十二）

自昭和四十六年四月三十一日
至昭和四十七年三月三十一日

(一) 昭和四十六年度金沢大学社会教育研究室
活動要項

- ・ 社会教育の原理的研究部門
 - ・ 社会教育の実践的方策研究部門
 - ・ 調査研究部門
 - ・ 刊行事業
 - ・ 図書資料の充実
- (二) 社会教育研究室事務局ならびに研究員
研究室運営委員会委員

(四) 昭和四十六年度社会教育研究室研究活動
目録

- (五) 入室式
- (六) 学内開放講座
- ・ 問題別研究会
 - ・ 共同研究会
- (七) 学外開放講座
- (八) 刊行
- (九) 図書資料の蒐集

(一) 昭和四十六年度金沢大学社会教育研究室活動要項

(1) 社会教育の原理的研究部門

研究主題

社会教育の理念

社会教育と大学

社会教育と公民館

特に討議する主題

社会教育機関としての大学

実施方法

レポーターの提案を中心に研究員研究会を年間十回開催

(2) 社会教育の実践的方策研究部門

研究主題「社会教育の理念」「社会教育と大学をふまえて、実験

的研究のため、大学開放講座を前年通り、本学の内外で実施

(4) 学内開放講座

研究生募集(学歴・年令・性別をとわず学習意欲のある一般社会人を公募して学習の場と機会を提供する)

この研究生に対し、左記の部会および研究会を開講する

(1) 問題別研究部会

- 社会思想研究部会
- 社会心理学研究部会
- 仏教思想研究部会
- 日本の教育研究部会
- 相談心理学研究部会
- 農村問題研究部会

(2) 共同研究会

主題 現代日本の課題

(4) 学外開放講座

(1) 県下の各地教育委員会で開催を希望する地区で、当該教育委員会と共催で、夏期休暇中に開催する

• 一会場三―五講義

(2) 文部省委嘱大学開放講座を金沢市中央公民館で一講座(約四十時間)開催

(3) 調査研究部門

従来数年にわたって実施してきた公民館調査をほぼ完了したので、次の共同研究としての調査について検討する

(4) 刊行事業

年報「社会教育研究」第十二号の発行

季報 三十三号、三十四号、三十五号、三十六号の発行

(5) 図書資料の充実

(二) 社会教育研究室事務局ならびに研究員

昭和四十六年度の室員は左の通りであった。

室員(事務局員)

室長	永守良治	教育学部長
主事	沢田忠治	教育学部教授
幹事	新谷賢太郎	教育学部助教授
〃	戸頃重基	法文学部教授
〃	出雲路暢良	教育学部助教授
書記	福島徳太郎	教育学部事務長
〃	清水繁	専任

※ 室長永守良治氏は本研究室発足当時より研究員・主事・ついで室長として、本研究室の創設・育成に尽力されたが昭和四十七年三月三十一日付で退官されることとなった。

また、主事沢田忠治氏も本研究室発足当初より研究員として特に社会心理学部会を育成され、また主事として当研究室の育成に勉められたが、昭和四十七年四月一日付で、新設の金沢大学付属医療技術短期大学部へ転出されることとなった。

両氏のご功績に深く謝意を表したい。なお、昭和四十七年四月一日より、新室長として、四月一日付就任の教育学部長大平

勝馬氏を迎えることとなった。また新主事には二月一日より教育学部助教出雲路暢良氏が就任した。

社会教育研究室研究員(十一名)(五十首順)

出雲路 暢良	教育学部助教	倫理学
岩男 耕三	教育学部助教	社会学
木村 久吉	薬学部 助教	生薬学
沢田 忠治	教育学部 教授	教育心理学
新谷 賢太郎	教育学部 教授	哲学

多田 治夫	教養部 助教	心理学
戸頃 重基	法学部 教授	倫理学
永守 良治	教育学部 教授	日本史学
二宮 哲雄	法学部 教授	社会学
橋本 芳契	法学部 教授	宗教学
矢ヶ崎 孝雄	教育学部 教授	地理学

※ 本年度より、都合により神力甚一郎氏が辞任され、代って二宮哲雄氏、木村久吉氏が新たに研究員に就任された。

(三) 金沢大学社会教育研究室運営委員会委員

永守 良治	教育学部長
戸頃 重基	法学部 教授
新谷 賢太郎	教育学部 教授
出雲路 暢良	教育学部 助教
益子 帰来也	理学部 教授
石崎 有信	医学部 教授
木村 久吉	薬学部 助教
柳原 麻夫	工学部 教授

相内 俊雄	教養部 教授
宮村 孝一	図書館 長
磯村 正	事務局 長
松井 我何人	経理部 長
福島 徳太郎	教育学部 事務長
大橋 秀二	図書館 事務長

(四) 昭和四十六年度社会教育研究室研究活動日録

四月 十二日(月)

十六日(金)

五月 一日(土)

八日(土)

十四日(金)

十五日(土)

入室式

① 研究員研究会

② 研究員研究会

③ 社会思想研究部会

① 農村問題研究会

① 仏教思想研究部会

三日(火) 同
 四日(水) 同
 五日(木) 同
 六日(金) 同
 七日(土) 同
 八日(日) 同
 九日(月) 同
 十日(火) 同
 十二日(木) 同
 十四日(土) 同
 十九日(木) 同
 二十日(金) 同
 二十一日(土) 同

- ④字の気町会場
 ②七塚町会場
 ※⑤山中町会場
 ※⑤字の気町会場
 ①津幡町会場
 ※③七塚町会場
 ②津幡町会場
 ②高松町会場
 ①鳥屋町会場
 ※③津幡町会場
 ※③松任市会場
 ③松任市会場
 ①羽咋市会場
 ④七尾市会場
 ②鳥屋町会場
 ③高松町会場
 ②辰口町会場
 ③鳥屋町会場
 ①②能登島町会場
 ④高松町会場
 ※④鳥屋町会場
 ②羽咋市会場
 ※⑤高松町会場
 ※③辰口町会場
 ④鶴来町会場
 ①穴水町会場
 ③羽咋市会場
 ※⑤七尾市会場

二十三日(月)
 二十四日(火)
 二十七日(金)
 二十八日(土)
 三十日(月)
 九月
 四日(土)
 十八日(土)
 十九日(日)
 二十日(月)
 二十三日(木)
 二十七日(月)
 三十日(木)
 十月
 二日(土)
 四日(月)
 七日(木)
 九日(土)
 十日(日)
 十一日(月)
 十四日(木)
 十八日(月)
 二十五日(月)
 二十八日(木)

- ④仏教思想研究会
 夏季講座※⑤鶴来町会場
 ②穴水町会場
 ③※④能登島町会場
 ③穴水町会場
 ④羽咋市会場
 ※④穴水町会場
 ⑤仏教思想研究部会
 ④共同研究会
 ④社会心理学部会
 夏季講座 ①金沢市中央公民館会場
 ②金沢市中央公民館会場
 ③金沢市中央公民館会場
 ④金沢市中央公民館会場
 ⑨研究員研究会
 ③相談心理学部会
 ④農村問題研究会
 夏季講座 ⑤金沢市中央公民館会場
 ⑥金沢市中央公民館会場
 同
 ⑤社会心理学部会
 ⑨仏教思想研究部会
 夏季講座 ⑦金沢市中央公民館会場
 ⑧金沢市中央公民館会場
 ⑨金沢市中央公民館会場
 ⑩金沢市中央公民館会場
 同
 「季報」第三十四号発行
 夏季講座※⑪金沢市中央公民館会場

- 三十日 (土) ⑤ 共同研究会
 十一月 八日 (月) ⑦ 研究員研究会
 十一日 (木) ④ 相談心理学部会
 十三日 (土) ⑨ 社会心理学部会
 二十日 (土) ⑦ 仏教思想研究部会
 二十六日 (金) ⑤ 農村問題研究部会
 二十七日 (土) ④ 日本の教育研究部会
 十二月 四日 (土) *⑨ 共同研究会
 十一日 (土) ⑤ 相談心理学部会
 十八日 (土) ⑦ 社会心理学部会
 十九日 (日) ⑥ 日本の教育研究部会
 二十三日 (木) *⑨ 農村問題研究部会
 二十五日 (土) ⑧ 仏教思想研究部会
- 昭和四十七年
 一月 八日 (土) ⑧ 仏教思想研究部会
 九日 (日) 社会心理学部会
 二十日 (木) 「季報」第三十五号発行
 二十三日 (日) ⑨ 相談心理学部会
 二十七日 (木) ⑧ 研究員研究会
 二十九日 (土) ⑨ 日本の教育研究部会
 二月 五日 (土) ⑨ 社会心理学部会

(五) 入 室 式

- 十三日 (日) *⑩ 仏教思想研究部会
 十九日 (土) *⑦ 相談心理学部会
 二十五日 (金) ⑨ 研究員研究会
 二十六日 (土) *⑦ 日本の教育研究部会
 三月 四日 (土) *⑩ 社会心理学部会
 三十日 (木) *⑩ 研究員研究会
 三十一日 (金) 「季報」第三十六号発行
- 註 *の数字は最終回を示す。
 研究員研究会 十回
 学内開放講座
 社会思想研究部会 二回
 社会心理学部会 十回
 仏教思想研究部会 十回
 日本の教育研究部会 七回
 相談心理学部会 七回
 農村問題研究部会 六回
 共同研究会 六回
 学外開放講座(夏季講座)
 十九会場 八十二講義
 聴講者 二、八二五人(文部省委嘱開放講座の聴講者数は除いてある)

当研究室は発足(昭・33)以来、性別、年令、学歴を問わず学習意欲のある市民のかたがたに呼びかけ、応募者を研究生として迎

え、年間さまざまな学習形態の場を提供してきた。本年度(第十四年次)の入室式を次の式次第でが五月八日(土)に開催した。

場所 教育学部第二中講義室

時間 十三時半—

入室式次第

室長あいさつ

学長あいさつ

協力会代表あいさつ

研究員自己紹介

オリエンテーション

（六）学内開放講座

- (1) 問題別研究部会
- (2) 共同研究会

(1) 問題別研究部会

昭和四十六年度入室の研究生のための学習の場として、前記の研究活動日録にあるように学内開放講座は当研究室の講義室において、年間四十八回開講した。一回三時間のセミナー形式の学習を行った。従って学習時の総計は、一四四時間に及ぶ。

市民一般に学習の場を提供し、当研究室の研究員である本学教官を中心にして、毎回セミナーを進め、各問題別に分れて学習し、その学習を系統的に深化しつつ実績を連年積み重ねること十四年間に達した。

各問題別研究部会の指導教官と使用テキストは左記の通りである。その進度は、本年度発行の「季報」三十三、四、五、六号にそれぞれ報告されている。

・社会思想研究部会

記念講演「戦後日本の二十五年」

——繁栄か混乱か—— 岩 男 耕 三

「東西比較哲学の原点」

松 尾 宝 作

閉会のあいさつ

記念講演要旨は「季報」三十三号所載。

本年度当初の研究生は継続者七九名、新入室者九六名、計一七五名であり、研究室開設以来の新記録である。

指導教官 戸頭重基（法文学部教授・倫理学）

テキスト 「宗教と社会思想との出会い」

・社会心理学部会

指導教官 沢田忠治（教育学部教授・教育心理学）

テキスト 南 博著「社会心理学入門」

林 健太郎講演概要「歴史の見方と歴史教育」

・仏教思想研究部会

指導教官 橋本芳契（法文学部教授・宗教学）

テキスト 平川 彰著「現代人のための仏教」（講談社新書）

・日本の教育研究部会

指導教官 岩男耕三（教育学部教育・社会学）

テキスト 山住正己著「教科書」（岩波新書）

・相談心理学部会

指導教官 多田治夫（教養部助教授・心理学）

目標はカウンセリングの基本を学ぶことにあり、本年度は異常

心理字にポイントをしぼり、また病院見学も行う。

・農村問題研究会

助言講師として、前田豊（高知県金沢青果物あっせん所長）上田三郎（石川県農業改良課長）氏等数名を迎え、出雲路・南両研究員が、当部会担当教官となり、研究生の学習の場と機会を確保した。

(2) 共同研究会

年間主題

現代日本の課題

日程

第一回集会

課題 「失われた自然」

日時 五月二十二日（土）

提案者 岩男研究員

司会者 沢田研究員

第二回集会

課題 「現代と性」

日時 六月十二日（土）

提案者 多田研究員

司会者 出雲路研究員

第三回集会

課題 「生命の尊重」

日時 七月十日（土）

(七) 学外開放講座

第四回集会

課題 「組織と人間」

日時 九月十八日（土）

提案・司会者 戸頃研究員

第五回集会

課題 「生涯教育」

日時 十月三十日（土）

提案者 橋本研究員

司会者 永守研究員

第六回集会

議題 四十六年度共同研究会反省

四十七年度研究事業要望

日時 十二月四日（土）

司会者 出雲路研究員

各集会とも教育学部会議室で行う。

十三時より十六時半を原則とたが、ときには十七時三十分にも及んだときもあった。参加者は毎回四十名近くあり、熱心な討議がなされた。

各回の記録をとり、第一、三、四、五回の記録は、「季報」三十五号に、第二回の分は三十四号、第六回の分は三十六号にそれぞれ報告した。

(1) 昭和四十年以来当研究室では大学の夏季休暇時を利用して、県下各地で学外開放講座を開催してきた。本年は第七年次に当る。この講座は各地教育委員会の希望により、当研究室と共催で行うものである。その内訳は次の通りである。

・山中町会場

七月三十日 家庭教育の任務 沢田忠治

三十一日 家庭生活と宗教的情操 橋本芳契

八月一日 最近の日本の公害問題 木村久吉

二日 最近の政治の動向 岩男耕三

三日 子供からみた親の人間像 永守良治

・加賀市山代町会場

七月二十日 最近の日本の公害問題 木村久吉

二十一日 職場内の人間関係 沢田忠治

二十二日 日本社会のゆくえ ―二十一世紀の未来像― 二宮哲雄

二十三日 現代と性 多田治夫

二十四日 最近の政治の動向 岩男耕三

・辰口町会場

七月三十日 家庭生活と宗教的情操 沢田忠治

八月十日 日本文化と宗教 橋本芳契

二十日 親鸞の世界 出雲路暢良

・美川町会場

七月二十日 日本社会のゆくえ ―二十一世紀の未来像― 二宮哲雄

二十二日 最近の日本の公害問題 木村久吉

二十四日 生涯教育 沢田忠治

・松任市会場

七月二十四日 現代の性 多田治夫

三十一日 最近の政治の動向 岩男耕三

八月七日 いままでの日本、これからの日本 永守良治

・鶴来町会場

七月二十六日 都市化と農村問題 二宮哲雄

二十七日 ことばと気持 多田治夫

二十八日 戦後教育の諸問題 沢田忠治

八月二十日 人間とは何か 出雲路暢良

二十三日 現代の事としての宗教 出雲路暢良

・津幡町会場

八月四日 日本農村の現状と未来 二宮哲雄

五日 最近の日本の公害問題 木村久吉

六日 最近の政治動向 岩男耕三

・宇の気町会場

七月三十日 いままでの日本、これからの日本 永守良治

三十一日 日本農村の現状と未来 二宮哲雄

八月一日 最近の政治の動向 岩男耕三

二日 疎外と人間回復 多田治夫

三日 円の切り上げは生活にどのようにひびくか 山村勝郎

・七塚町会場

七月二十九日 ことばと気持 多田治夫

八月二日 素人にもわかる仏像の見方 橋本芳契

四日 最近の政治の動向 岩男耕三

・高松町会場

七月二十九日 家庭生活と宗教的情操

八月五日 これからの人間像

九月 生活につながる仏像の智慧

十二月 素人にもわかる仏像の見方

十九日 現代の事としての宗教

・羽咋市会場

八月七日 子供からみた親の人間像

十四日 現代と性

二十一日 最近の政治の動向

二十八日 戦後日本の教育

・富来町会場

七月二十六日 青少年非行の原因と対策

二十七日 家庭教育の任務

二十八日 職場内の人間関係

・鳥屋町会場

八月五日 余暇時代とその背景

八月 最近の政治の動向

十日 いままでの日本、これからの日本

十二日 現代と性

・七尾市会場

七月十七日 正常と異常

二十四日 いままでの日本、これからの日本

三十一日 最近の日本の公害問題

八月七日 最近の政治の動向

二十一日 人間とは何か

・能登島町会場

八月十日 日本の農村の現状と未来

同日 //

二十四日 家庭内の人間関係

同日 //

・中島町会場

七月二十五日 疎外と人間回復

二十八日 日本の政治の動向

八月一日 最近の日本の公害問題

同日 日本社会のゆくえ ― 二十一世紀の未来像 ―

・穴水町会場

八月二十日 子供からみた親の人間像

二十三日 家庭教育の任務

二十七日 子供の心理と教育

三十日 家庭内の人間関係

・珠洲市会場

七月二十七日 最近の政治の動向

三十日 日本農村の現状と未来

二宮 哲雄

//

沢田 忠治

//

多田 治夫

岩男 耕三

木村 久吉

二宮 哲雄

二宮 哲雄

永守 良治

沢田 忠治

沢田 忠治

沢田 忠治

沢田 忠治

岩男 耕三

二宮 哲雄

二宮 哲雄

岩男 耕三

二宮 哲雄

二宮 哲雄

岩男 耕三

二宮 哲雄

二宮 哲雄

岩男 耕三

二宮 哲雄

二宮 哲雄

岩男 耕三

二宮 哲雄

・夏季大学開放講座受講者調

会場名	講座数	受講者数
山加賀	5	181
山代	5	236
山口	3	113
川任	3	259
来幡	3	174
気	5	123
塚松	3	103
昨来	5	276
屋尾	3	295
尾	5	65
登	4	90
島水	3	184
洲	4	190
中穴	5	95
珠	4	105
	4	90
	2	180
	2	66
計	18	2,825

(2) 文部省委嘱大学開放講座
講座名 「現代日本の課題」
会場 金沢市中央公民館

刊 行

・「社会教育研究第十一号 B5版 一八一頁 昭和四十六年五月二十日発行

青少年の非行の原因とその対策
— 非行防止のために家庭・学校・社会は如何にあるべきか —

戦後社会変動の基底

近代における宗教と社会思想との出会い

生涯教育と仏教の社会観

カウンセラ―養成の現状と問題

沢田 忠治
岩男 耕三
戸頃 重基
橋本 芳孝
多田 治夫

講義題目と担当者は次の如くである。

九月二十日 私は現代をこのようにみる

二十三日 人間にとって科学とは何か

二十七日 最近の日本の公害問題

三十日 話せばわかるか — 現代の人間関係 —

十月 四日 日本社会のゆくえ — 二十一世紀の未来像 —

七日 教科書問題 — 国家と教育 —

十一日 沖繩返還の表と裏

十四日 戦後日本史学の争点

十八日 現代の事としての宗教

二十五日 現代に生きる仏教

二十八日 生涯教育としての教育

出雲路 暢良

戸頃 重基

木村 久吉

多田 治夫

二宮 哲雄

永守 良治

前田 慶穂

宮本 又久

出雲路 暢良

橋本 芳契

沢田 忠治

研究室の歩み 第十報

季報三十四、五、六号 (A5版) 三十三号 (二十三頁) 七月三十一日発行

「失われた自然」ということについて

昭和四十六年度研究生入室式挨拶

昭和四十六年度研究生入室式記念講演

「戦後日本の二十五年」 — 繁栄か混乱か —

「東西比較哲学の原点」

岩男 耕三
中川 善之助
松尾 宝作
岩男 耕三
松尾 宝作

研究室の歩み（昭和四十六年度第一報）三十四号（四十六頁）十月二十五日発行

「社会教育審議会の答申」によせて
ヨーロッパ教育事情視察から帰って——第一報——
出雲路 暢 良

大学と社会教育
共同研究会記録
昭和四十六年度夏季開放講座日程
沢田 忠治
新谷 賢太郎

研究室の歩み（昭和四十六年度第二報）三十五号（二四三頁）
昭和四十七年一月二十日発行

加賀藩における林業政策と自然保護
木村 久吉

仏教における中道思想の哲学的検証
戸頃 重基

社教研究室主事時代の思い出
永守 良治

(九) 図書資料の蒐集

合計九十五冊を蒐集した。明細は季報三十六号に所載
以上は昭和四十六年度の概況の報告である。

文部省委嘱大学開放講座講義日程

講義要項

研究室の歩み（昭和四十六年第三報）三十六号（二十七頁）三月三十一日発行

人間関係の体験学習——ある日のカウンセリング部会——

多田 治夫

アメリカの断面——ある黒人婦人——

二宮 哲雄

文化と宗教について

橋本 芳契

研究生のページ

岡田 ひさえ

主婦の立場からみた公害問題

共同研究会記録
昭和四十六年度購入図書明細表
昭和四十年年度蒐集資料明細表
研究室の歩み（昭和四十六年度第四報）